

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文庫	症例	修正 使用 措置	感染症(PID)	出典	概要
655	2007/10/25	70655	塩野義製 薬	デセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組 換え)	人血清アル ブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	ニパウイルス	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1031- 1037	脳炎アウトブレイクの原因とリスク因子解明のため、2004 年4-5月にバングラデシュのFaridpur地区で調査が実施 された。その結果、36例のニパウイルス患者が同定され、 内75%が死亡例であった。ケースコントロール試験の結果、 果、1名の患者との接触が最も高い感染リスクであること が示された。環境検体のRT-PCR試験により、病院の表 面にニパウイルス汚染があることが明らかとなった。この 調査により、ニパウイルスのヒト-ヒト伝播のエビデンスが 示された。
656	2007/10/25	70656	塩野義製 薬	デセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組 換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリ ア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無	ウイルス感染	PLoS ONE 2007; 8: e764	マールブルグウイルスはヒトおよび霊長類において高致 死率の出血熱アウトブレイクの原因となる。ガボンおよび コンゴ共和国の5つの地区から収集された10種1138匹の コウモリを調べたところ、ウイルス特異的RNAおよびIg抗 体により、フルーゾコウモリの1種であるRousettus aegyptiacusにおいてのみマールブルグウイルス感染が確 認された。非霊長類動物で自然感染が同定された初めての 報告であり、アフリカのこの地域に同ウイルスが存在す ることを示す初の報告である。
657	2007/10/25	70657	塩野義製 薬	デセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組 換え)	バクトリプト ン	ウシ乳	オーストラリ ア、ニュー ジーランド、 アメリカ	製造工程	無	無	無			
658	2007/10/25	70658	塩野義製 薬	デセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組 換え)	バンクレアチ ン	ブタ臓臓抽出 物	アメリカ、カ ナダ	製造工程	無	無	無			
659	2007/10/25	70659	デンカ生 研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	DNase I	ウシの臓臓	製造中止に より記載な し	製造工程	無	無	無			
660	2007/10/25	70660	デンカ生 研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリ ザルの腎細 胞由来	製造中止に より記載な し	製造工程	無	無	無			
661	2007/10/25	70661	デンカ生 研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	RNase A	ウシの臓臓	製造中止に より記載な し	製造工程	無	無	無			